

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人 日本リンパ網内系学会
理事長 稲垣宏

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

毎年1回の学術集会の開催

2021	第61回学術集会・総会（岡山市、集会長：吉野正、岡山大学大学院）
2020	第60回学術集会・総会（名古屋市、集会長：岡本昌隆、藤田医科大学）
2019	第59回学術集会・総会（出雲市、集会長：鈴木淳司、島根大学）
2018	第58回学術集会・総会（名古屋市、集会長：中村栄男、名古屋大学）
2017	第57回学術集会・総会（東京都、集会長：三浦偉久男、聖マリアンナ大学）
2016	第56回学術集会・総会（熊本市、集会長：竹屋元裕、熊本大学）

b. 当該領域における国際的な役割

国際英文誌、Journal of Clinical and Experimental Hematopathology の刊行

2020	Vol. 60, No 1-4
2019	Vol. 59, No 1-4
2018	Vol. 58, No 1-4
2017	Vol. 57, No 1-3
2016	Vol. 56, No 1-3

c. 活動からもたらされる社会的な意義

本学会は以下の委員会を構成しており、それぞれが医療を通じて社会に貢献できる様活動している。プログラム委員会（学術集会の催行）、編集委員会（学術雑誌の刊行）、学術企画委員会（最先端を行く学術活動の企画）、教育委員会（教育を通じて学会員のレベルの向上）、診療保険委員会（保険診療への提言）、利益相反委員会（公正な学会活動の担保）、将来構想実施委員会（学会の未来像に対する提言）

d. 学会運営上留意している点

本学会は、基礎系（主に病理）と臨床系（主に血液内科）が共同して運営することに留意しており、またそれが当学会の特色でもある。このような形態の学会は少なく、基礎系と臨床系の研究者が意見交換できる貴重な場を提供している。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

上述のように、本学会が基礎系と臨床系の研究者が集う場所になっていることから、病理学会、分子生物学会、薬理学会および血液学会、放射線学会、臨床腫瘍学会の会員も多く、多彩な情報が交換できる。